

2021

4年 小型ハードル走

松戸市立八ヶ崎小学校

小型ハードル走は・・・

一定の距離に置かれたいくつかの障害物をリズムカルに走り越える運動である。自分のリズムに合う小型ハードルやインターバルの距離を見付けて運動することにより、自己の目指す記録に挑戦したり、相手と競走したりするところに楽しさや喜びがある。

児童から見ると・・・

○記録への挑戦や友達との競走が楽しい。

○自己の記録更新や自己のめあての達成、競走での勝利により、一層楽しいものとなる。



親しみやすい

○記録が数値で表れるため、自己やチームの記録の伸びを明確に実感し、達成感や喜びが味わえる。

▲記録の伸び悩みや練習中の転倒により、意欲が低下してしまう。



苦手意識につながってしまう

学習カード

学習財
(教材)

本校では・・・

☆小型ハードル走の楽しさや喜びに触れ、インターバルの距離や小型ハードルの高さに応じてリズムよく走り越えることの面白さを味わうことができるようにする。

《教具・用具》

・小型ハードル

<ペットボトルハードル（通常）>



<ペットボトルハードル（高い）>



<コーンハードル>



<段ボールハードル①>



<段ボールハードル②>



<ケンステップハードル>



・リズム走で使用するケンステップ…1コースに三つ

(ケンステップ二つ、スズランテープ1m)



・リレーで使用するもの 《チームで使用するかごの中身》

<赤旗>



<コーン>



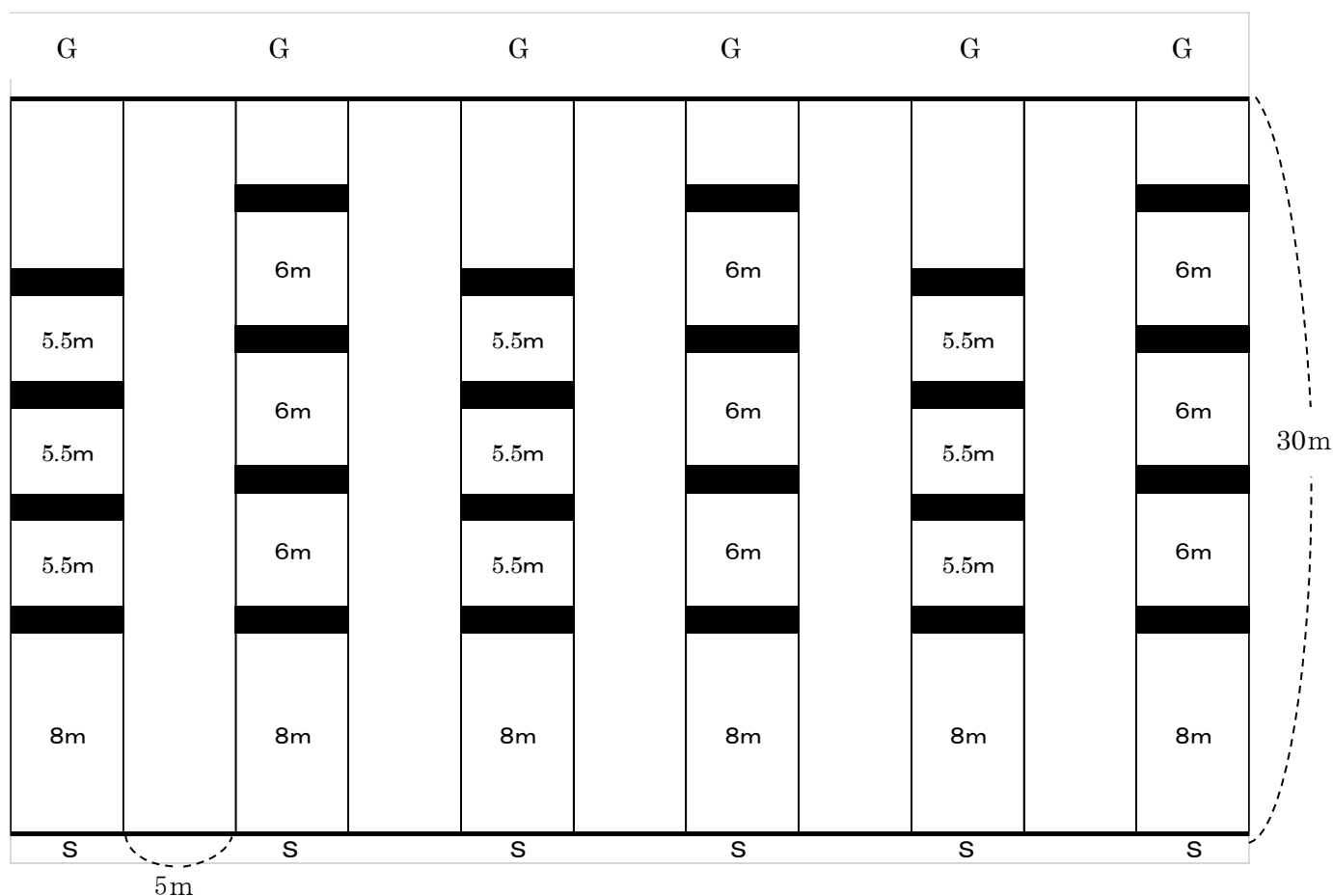
・水筒



・学習カード
(ファイルに綴じている)
・筆記用具



《場づくり》



・ **全長 30mのコース**

・ **6コース…インターバルが 5.5mのコースが3コース
6mのコースが3コース**

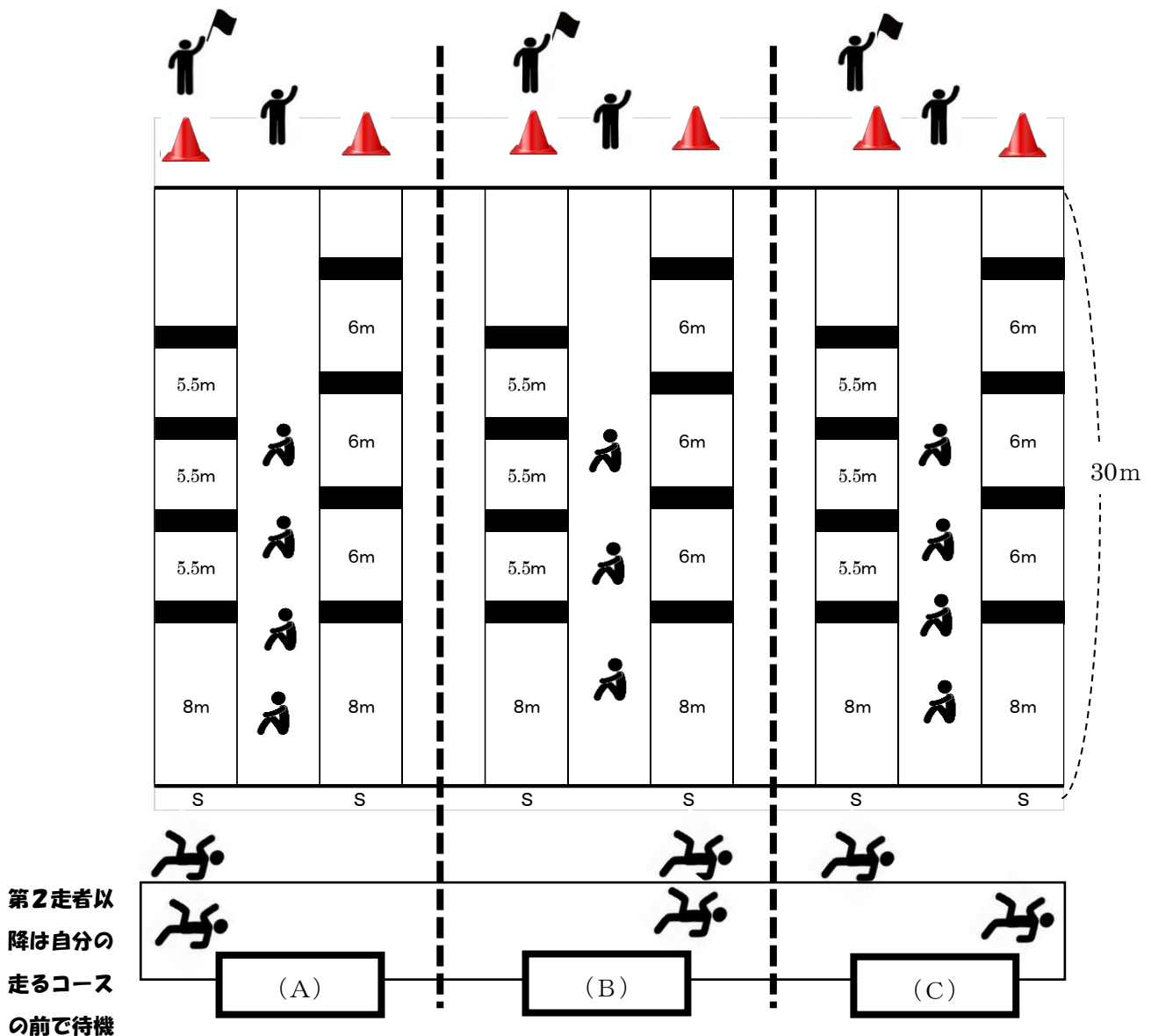
※ **7時間目から5mのコースも2コース作った。**

(5mのコースが2コース, 5.5mのコースが2コース, 6mのコースが2コース)

・ **小型ハードル…1コース当たり4台。**






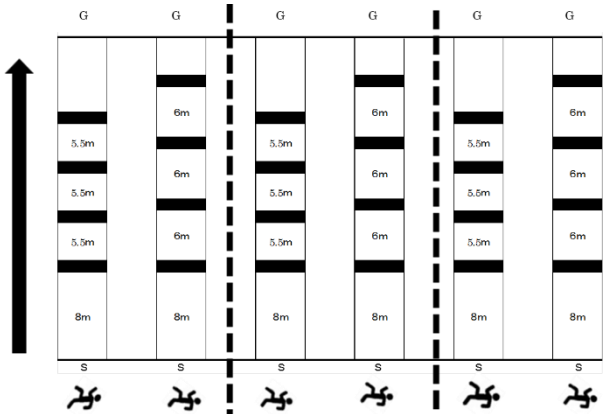

(ペットボトル・段ボール箱・段ボールを半分に切ったもの・コーン・ケンステップの中から児童が選択したものを2種類に絞り使用する。選択する際は、児童にアンケートを実施し決定する。)


《リレーの仕方》



- ・ 1チーム5～6名（全6チーム）
- ・ リレーは、1時間の授業の中で1回とする。（8時間目のみ2回実施）
- ・ 児童が自分に合ったインターバルを選択して行う。
- ・ 1回のリレーで同時に3チーム行う。残りの3チームはリレーの補助を行う。これを2回実施する。
- ・ スタートの合図は、教師がホイッスルで一斉に行う。
- ・ 第1走者がスタートし、ゴールまで走り切った際にはコーンにタッチする。走者がタッチしたことをペアチームの児童が観察し、旗を上げる。旗が上がったのを確認できたら、第2走者がスタートする。これを第6走者まで実施する。
- ・ ゴールの判定は教師が確認する。

《課題解決のために必要と予想される練習方法》

<p>①</p>	<p>いろいろ小型ハードル走①</p>	<p>ペットボトルハードルや段ボールハードル等，高さや奥行き異なる小型ハードルを走り越えていく楽しさを味わいながら，気持ちよく・走りやすいコースを見付けたり，調子よく小型ハードルを走り越える技能を身に付けたりすることを目的とする。</p> <p><ペットボトルハードル> <段ボールハードル①></p>   <p><段ボールハードル②> <コーンハードル> <ケンステップハードル></p>   
<p>②</p>	<p>インターバルリサーチ</p>	<p>リレーを行うのと同じ場所で練習を実施し，自分に合ったインターバルを見付けていくことを目的とする。インターバルの種類は 5.5m と 6m を想定している。</p> 
<p>③</p>	<p>リズム走</p>	<p>紐でつながれたケンステップを素早く走り抜ける。30m程度の距離をリズムよく走り抜ける感覚を身に付けることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケンステップをつなぐひもの長さ… 1m (段ボールハードルの奥行きを基に設定) ・インターバル… 4.1m (インターバルが 5.5m のコース) 4.6m (インターバルが 6m のコース) 

④	いろいろ小型ハードル走②	<p>「いろいろ小型ハードル走①」よりも、少し高さや奥行きがある小型ハードルで行う。自分に合ったインターバルのコースで、より高さや奥行きのある小型ハードルを調子よく走り越える技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>＜少し高さのあるペットボトルハードル＞</p> 
---	--------------	---

《 体育の学力(評価規準) 》

知識・技能	<p>①小型ハードル走の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②いろいろなリズムで小型ハードルを走り越えることができる。</p> <p>③一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えることができる。</p>
思考・判断・表現	<p>①自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。</p> <p>②友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたいしたことを友達に伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②きまりを守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。</p> <p>③用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。</p> <p>④友達の考えを認めようとしている。</p> <p>⑤場や用具の安全を確かめている。</p>

《指導計画（8時間）》

時間	1(はじめ)	2	3	4	5	6(なか)	7	8(おわり)									
	知識・技能の獲得							自己の課題に応じた練習の選択									
0 10 15	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (単元を通した学習のねらい、学習のルール、用具の扱い方等) ・課題確認 ・ウォーミングアップ ・健康観察 ・いろいろハードル走① 	知識・技能の獲得 ・あいさつ ・準備 ・ウォーミングアップ ・健康観察 ・課題確認 <課題解決学習> 学習課題を自分事として捉え、解決したい課題の解決に向けて試行錯誤することを通して、知識・技能を獲得することができるようにする。 <予想される課題> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>小型ハードルのいろいろな置き方を考える</td> <td>等間隔のインターバルについて考える</td> <td>自分に合ったインターバルを見付ける</td> <td>自分に合ったリズムを見付ける</td> </tr> </table> <予想される練習方法> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>いろいろ小型ハードル走</td> <td>インターバルリサーチ</td> <td>リズム走</td> </tr> </table>				小型ハードルのいろいろな置き方を考える	等間隔のインターバルについて考える	自分に合ったインターバルを見付ける	自分に合ったリズムを見付ける	いろいろ小型ハードル走	インターバルリサーチ	リズム走	<課題解決学習> 学習課題を自分事として捉え、解決したい課題の解決に向けて試行錯誤することを通して、知識・技能を獲得することができるようにする。 <予想される課題> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>より高い小型ハードルをリズムよく走り越える</td> </tr> </table> <予想される練習方法> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>いろいろ小型ハードル走②</td> </tr> </table>		より高い小型ハードルをリズムよく走り越える	いろいろ小型ハードル走②	チーム対抗!ルー① <課題解決学習> 単元前半で獲得した知識・技能を活用・発揮しながら、自己の課題をよりよく解決することができるようにする。 <予想される課題> 競争に向けて、よさや課題を伝え合う
小型ハードルのいろいろな置き方を考える		等間隔のインターバルについて考える	自分に合ったインターバルを見付ける	自分に合ったリズムを見付ける													
いろいろ小型ハードル走		インターバルリサーチ	リズム走														
より高い小型ハードルをリズムよく走り越える																	
いろいろ小型ハードル走②																	
30	チーム対抗!ルー							チーム対抗!ルー②									
35	・反省(学習カード記述)※単元のはじめ(1時間目)、なか(4時間目)、おわり(8時間目)については、記述内容の変容を見取るため記述時間を5分とし、それ以外は3分とする。																
45	・まとめ ・クールダウン ・片付け ・あいさつ																
評価の重点	知識・技能	②いろいろなリズムで走り越える	①行い方を知る		③一定のリズムで走り越える												
	思考・判断・表現			②自分の考えを伝える			①課題の解決方法を選ぶ										
	主体的に学習に取り組む態度	①進んで取り組む	④考えを認める	③準備や片付けを友達と一緒にする			⑤場や用具の安全を確かめる	②きまりを守り、仲よく運動する									

展開1 (1時間目: オリエンテーション)

- ・「やってみたい」「自分にもできそうだ」という思いをもって単元を始められるようにする (※教材との出会いを大切にす)。
- ・単元を通してのねらいを伝え、学習のめあてをもつことができるようにする。
- ・用具の扱い方・場づくりについて指導する。
- ・小型ハードル走の学習におけるルールを指導する。

時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
2	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを持って整列し、マスクを着けた状態であいさつをする。 ○集合場所、並び方、服装、持ち物の置き場所について確認する。 ・ビブスはズボンにしまう。
10	健康観察 オリエンテーション 課題確認 学習の場や用具の準備	<div data-bbox="911 618 1171 824" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○顔色を観る。 ・単元を通じた学習の課題を知る。 ・学習の内容やねらい、進め方を知る。 ・チームのリーダーは、メンバーの学習カードを集め、かごに入れる。 <p>○小型ハードル、ケンステップ、コーンなどの運び方や運ぶ場所などを確認する。</p> <p>○課題解決学習を行うホームコースやペアチームについて確認する。</p> <p>○コース設営のイメージがつかめるよう、本時(1時間目)では教師がある程度準備しておき、1コートのみ全員で確認してから準備をするようにする。</p> ・所定の場所に置くことを確認し、運ぶ役割を決める。 <div data-bbox="472 1227 1465 1783" data-label="Diagram"> </div>
3	ウォーミングアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを外して運動する(外さなくてもよい)。 ○単元を通して、教師のかけ声に合わせてウォーミングアップをするため、広がり方や内容を確認する。 ・準備運動、ダッシュ、スキップ(高く、速く)、ケンケン、小股走り、大股走り
3	主運動の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろ小型ハードル走①について以下の説明をする。 ・マスクを着けて説明を聞く。 ・各チームで自分のコースに分かれて運動を行う。

1 5

主運動

- ・自分の前に走っている人が第3ハードルまで行ったら、次の人がスタートしてよいこととする。
- ・走り終わったら、コースの左側から戻ることを徹底する。

○いろいろ小型ハードル走①

ペットボトルハードルや段ボールハードル等、高さや奥行き異なる小型ハードルを走り越えていく楽しさを味わいながら、気持ちよく・走りやすいコースを見付けたり、調子よく小型ハードルを走り越える技能を身に付けたりすることを目的とする。

- ・マスクを外して運動する（外さなくてもよい）
- ・リズムよく走り越えていたり、スピードに乗って走り越えたりしている児童に肯定的な声かけをする。
- ・小型ハードルを踏まないよう、安全面に注意して走るように声をかける。

5

反省

- ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。
- ・マスクを着け、チームごとに円になって行う。
- ①本時のめあてやゲームの状況、愛好度、成就感について簡単な選択式で回答（記入）する。
- ②回答したことを基に、チームの成果や課題について話し合う。
- ③話し合ったことを踏まえ、個人の成果や課題について記述する。
- 安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。

○学習カードを持って整列するように指示をする。

- ・小型ハードル走を走り越えてみて感じたこと（楽しかったことや難しかったこと）について、全体で共有する。

7

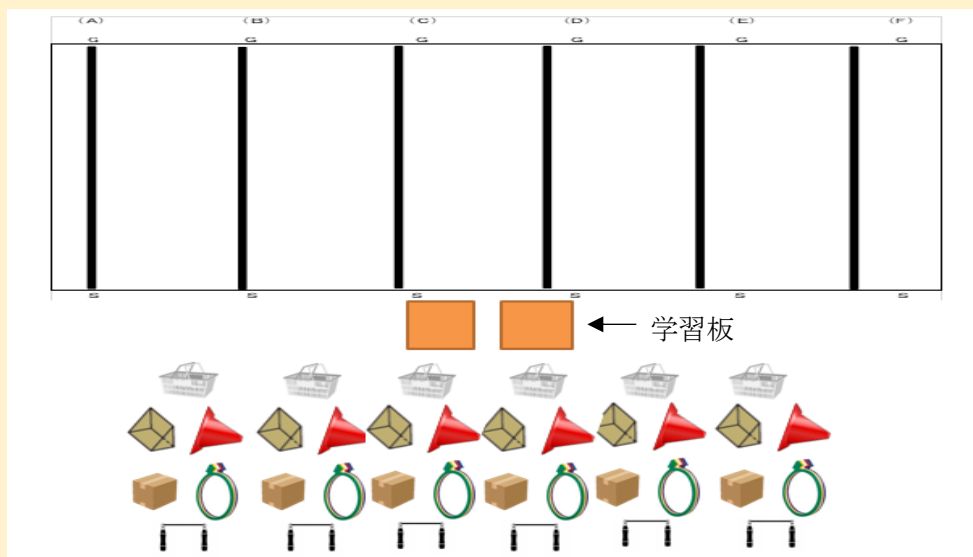
まとめ

○けがの有無を確認するとともに、使った部位を中心にほぐすよう指導する。

クールダウン

○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。

片付け



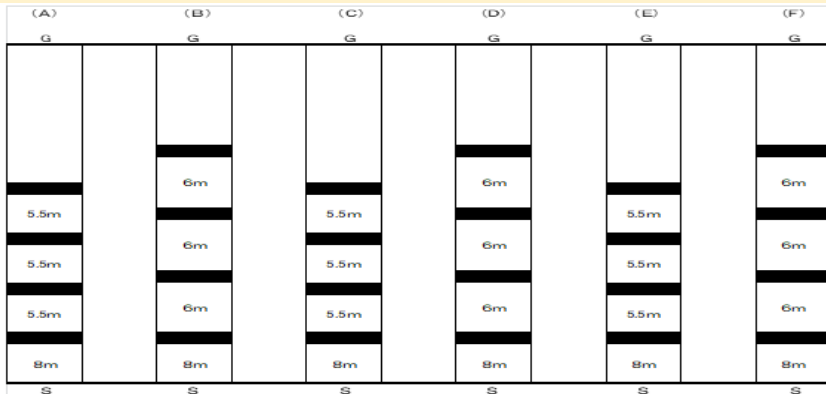
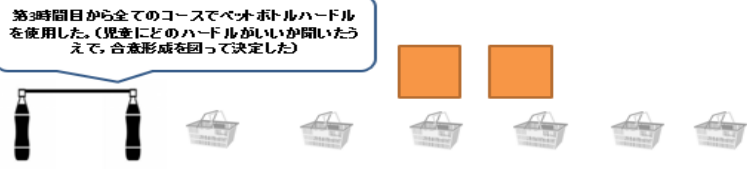
- ・マスクを着けた状態であいさつをする。

あいさつ

展開2（2時間目）

時配	過 程	・学習内容と活動 ○指導と支援
3	あいさつ	・整列し、マスクを着けた状態であいさつをする。
	学習の場や用具の準備	○素早く安全に気を付けて準備ができるように、役割分担を決めておく。
5	ウォーミングアップ	・準備運動、ダッシュ、スキップ（高く、速く）、ケンケン、小股走り、大股走り
7	健康観察	・マスクを着けて整列をする。 ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。 ○顔色を観る。
	課題確認	○学習カードに記述した前時の課題とそれに対する教師のコメントを読んで、見通しをもってから学習課題に臨むことができるようにする。 ○前時の学習内容が確認できるよう、よく書けていた学習カードを拡大したものを全体で紹介する。 <2時間目>
20	課題解決学習	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 気持ちよく走りこえるには、どのように小型ハードルを置けばよいだろうか。 </div> ○いろいろな小型ハードル走① ・マスクを外して運動する（外さなくてもよい） ・リズムよく走り越えていたり、スピードに乗って走り越えたりしている児童に肯定的な声かけをする。 ・小型ハードルを踏まないよう、安全面に注意して走るように声をかける。 ○一生懸命活動することができている児童やチームを称賛する。
		10 反省 ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。 ・マスクを着け、チームごとに円になって行う。 ①本時のめあてやゲームの状況、愛好度、成就感について簡単な選択式で回答（記入）する。 ②回答したことを基に、チームの成果や課題について話し合う。 ③話し合ったことを踏まえ、個人の成果や課題について記述する。 ○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。
	まとめ	○学習カードを持って整列するように指示をする。 ・小型ハードル走を走り越えてみて感じたこと（楽しかったことや難しかったこと）について、全体で共有する。
	クールダウン	○けがの有無を確認するとともに、使った部位を中心にほぐすよう指導する。
	片付け	○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。
	あいさつ	・マスクを着けた状態であいさつをする。

展開3（3時間目～7時間目）

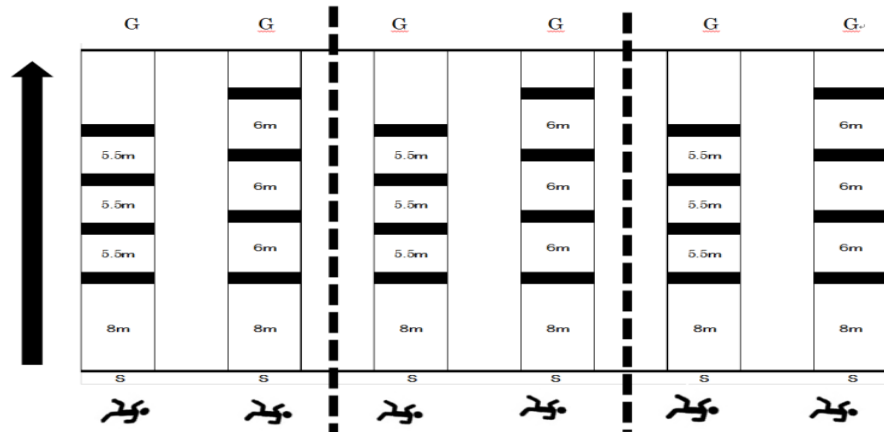
時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
3	あいさつ 学習の場や 用具の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・整列し、マスクを着けた状態であいさつをする。 ○素早く安全に気を付けて準備ができるように、役割分担を決めておく。 ○第3時間目からは、インターバルの長さを均等にし、5.5mと6mのコースを作る。（児童の必要感に応じて、5mのインターバルのコースも作ることを想定しておく）  <p>第3時間目から全てのコースでペオボトルハードルを使用した。（児童にどのハードルがいいか聞いたうえで、合意形成を図って決定した）</p> 
5	ウォーミングアップ 健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動，ダッシュ，スキップ（高く，速く），ケンケン，小股走り，大股走り，リズム走 ・マスクを着けて整列をする。 ・チームのリーダーは，学習カードを持ってきて，メンバーに配る。 ○顔色を観る。
7	課題確認	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードに記述した前時の課題とそれに対する教師のコメントを読んで，見通しをもってからゲームに臨むことができるようにする。 ○前時の学習内容が確認できるよう，よく書けていた学習カードを拡大したものを全体で紹介する。 <p>< 3 時間目 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">同じ間かくでも，どの間かくのコースが走り越えやすいのだろうか。</div> <p>< 4 時間目 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">気持ちよく走りこえることができるコースを見つけよう。</div> <p>< 5 時間目 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">気持ちよく走りこえることができるのは，どのようなリズムだろうか。</div> <p>< 6 時間目 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">より高い小型ハードルを気持ちよく走りこそう！</div>

< 7時間目 >

より高い小型ハードルを気持ちよく走りこえるために、大切な事は何だろうか。

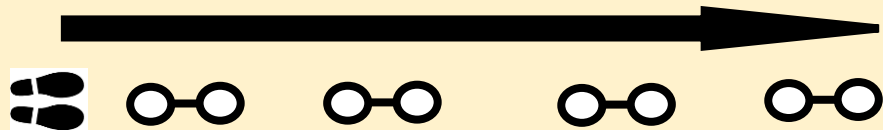
○インターバルリサーチ

リレーを行うのと同じ場所で練習を実施し、自分に合ったインターバルを見付けていくことを目的とする。インターバルの種類は5.5mと6mを想定している。



○リズム走

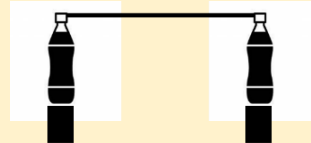
紐でつながれたケンステップを素早く走り抜ける。30m程度の距離をリズムよく走り抜ける感覚を身に付けることを目的とする。



○いろいろ小型ハードル走②

「いろいろ小型ハードル走①」よりも、少し高さや奥行きがある小型ハードルで行う。自分に合ったインターバルのコースで、より高さや奥行きのある小型ハードルを調子よく走り越える技能を身に付けることを目的とする。

少し高さのある小型ハードル→

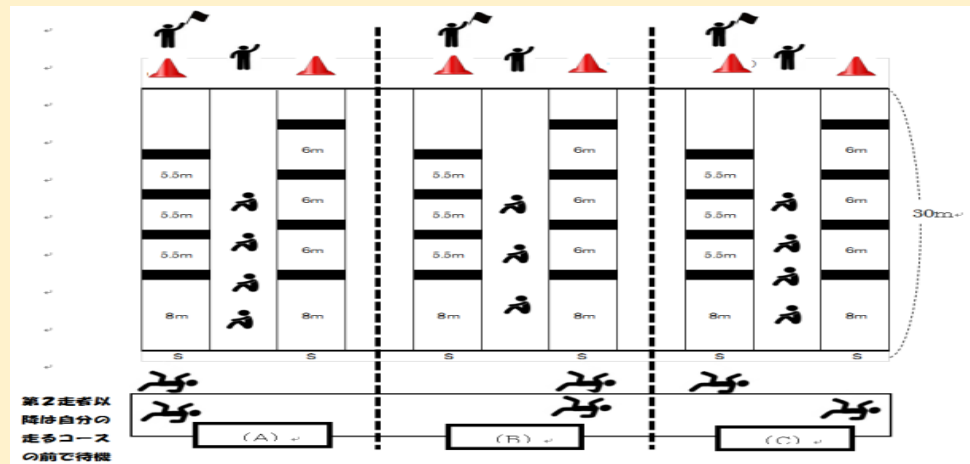


- ・マスクを外して運動する（外さなくてもよい）
 - ・リズムよく走り越えていたり、スピードに乗って走り越えたりしている児童に肯定的な声かけをする。
 - ・小型ハードルを踏まないよう、安全面に注意して走るように声をかける。
- 一生懸命活動することができている児童やチームを称賛する。

5 リレー

○チーム対抗のリレーを行う。

- ・1チーム5～6名（全6チーム）
- ・リレーは、1時間の授業の中で1回とする。（第8時間目のみ2回実施）
- ・児童が自分に合ったインターバルを選択して行う。
- ・1回のリレーで同時に3チーム行う。残りの3チームはリレーの補助を行う。これを2回実施する。
- ・スタートの合図は、教師がホイッスルで一斉に行う。
- ・第1走者がスタートし、ゴールまで走り切った際にはコーンにタッチする。走者がタッチしたことをペアチームの児童が観察し、旗を上げる。旗が上がったのを確認できたら、第2走者がスタートする。これを第6走者まで実施する。
- ・ゴールの判定は教師が確認する。



10 反省

- ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。
- ・マスクを着け、チームごとに円になって行う。
- ①本時のめあてやゲームの状況、愛好度、成就感について簡単な選択式で回答（記入）する。
- ②回答したことを基に、チームの成果や課題について話し合う。
- ③話し合ったことを踏まえ、個人の成果や課題について記述する。
- 安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。

まとめ

- 学習カードを持って整列するように指示をする。
- ・本時の学習課題について、取り組んでみた成果と課題を全体で共有する。

クールダウン

- けがの有無を確認するとともに、使った部位を中心にほぐすよう指導する。

片付け

- 安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。

あいさつ

- ・マスクを着けた状態であいさつをする。

展開4（8時間目）

時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
3	あいさつ 学習の場や用具の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・整列し、マスクを着けた状態であいさつをする。 ○素早く安全に気を付けて準備ができるように、役割分担を決めておく。 ○第3時間目からは、インターバルの長さを均等にし、5.5mと6mのコースを作る。（児童の必要感に応じて、5mのインターバルのコースも作ることを想定しておく）
5	ウォーミングアップ 健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動、リズム走 ・マスクを着けて整列をする。 ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。 ○顔色を観る。
7	課題確認	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードに記述した前時の課題とそれに対する教師のコメントを読んでも、見通しをもってから学習課題に臨むことができるようにする。 ○前時の学習内容が確認できるよう、よく書けていた学習カードを拡大したものを全体で紹介する。 <p>< 8時間目 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>学習したことを生かして、最高に気持ちよく小型ハードルを走り越えよう！</p> </div>
5	リレー①	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム対抗のリレーを行う。 ○一生懸命活動することができている児童やチームを称賛する。 ○よい走り方があったときには、何がよかったのか具体的に声をかけるようにする。
10	課題解決学習	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろ小型ハードル走② ・1回目のリレーで出た自分の課題に合わせて、自分に合ったコースを選んで練習する。
5	リレー②	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム対抗のリレーを行う。 ○一生懸命活動することができている児童やチームを称賛する。 ○よい走り方があったときには、何がよかったのか具体的に声をかけるようにする。
10	反省	<ul style="list-style-type: none"> ・チームのリーダーは、学習カードを持ってきて、メンバーに配る。 ・マスクを着け、チームごとに円になって行う。 ①本時のめあてやゲームの状況、愛好度、成就感について簡単な選択式で回答（記入）する。 ②回答したことを基に、チームの成果や課題について話し合う。 ③話し合ったことを踏まえ、個人の成果や課題について記述する。 ○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードを持って整列するように指示をする。 ・本時の学習課題について、取り組んでみた成果と課題を全体で共有する。
	クールダウン	<ul style="list-style-type: none"> ○けがの有無を確認するとともに、使った部位を中心にほぐすよう指導する。
	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。
	あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクを着けた状態であいさつをする。

評価に際する判定基準(4年「小型ハードル走」)

< 1時間目 >

体育の学力 (評価規準)	主体的に学習に取り組む態度①	
評価場面	課題解決学習	
評価方法	観察	
判定基準	A	小型ハードルを走り越えている時も、走り越えていない時も、進んで取り組もうとしている。
	B	小型ハードルを走り越える際に進んで取り組もうとしている。
	C	小型ハードルを走り越える際に進んで取り組もうとしていない。 →何に困っているのか児童に寄り添って聞き、励ましの声をかけたり、一緒に小型ハードル走に取り組んでみたりする。

< 2時間目 >

体育の学力 (評価規準)	知識・技能②	主体的に学習に取り組む態度④
評価場面	課題解決学習	反省
評価方法	観察	観察
判定基準	A	スピードに乗って、いろいろなリズムで小型ハードルを走り越えることができる。 自分の考えと友達のことを比較しながら、友達の考えを認めようとしている。
	B	いろいろなリズムで小型ハードルを走り越えることができる。 友達の考えを認めようとしている。
	C	いろいろなリズムで小型ハードルを走り越えることができない。 →掲示資料や本時の学習カードを用いながら、教師と共に走り越え方を確認する。 友達の考えを認めようとしていない。 →教師と共にチームの話合いに参加しながら、友達の考えを肯定的に認めて話を聞くように声をかける。

< 3時間目 >

体育の学力 (評価規準)	主体的に学習に取り組む態度③	
評価場面	準備、片付け	
評価方法	観察	
判定基準	A	周囲の友達に声をかけながら、用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。
	B	用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。
	C	用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしていない。 →場や用具を確かめることの大切さを伝えた上で、友達と協力して場や用具の安全を確かめるように声をかける。

< 4時間目 >

体育の学力 (評価規準)		知識・技能①
評価場面		反省
評価方法		学習カード
判定基準	A	小型ハードル走の行い方について、 <u>運動のポイントを詳しく言ったり書いたりしている。</u>
	B	小型ハードル走の行い方について、言ったり書いたりしている。
	C	小型ハードル走の行い方について、言ったり書いたりすることができない。 →分からず困ったことについて、コート図等の掲示物を使いながら一緒に確認する。

< 5時間目 >

体育の学力 (評価規準)		知識・技能③	主体的に学習に取り組む態度⑤
評価場面		課題解決学習	準備・片付け
評価方法		観察	観察
判定基準	A	一定の間隔に並べられた小型ハードルを <u>スピードに乗って一定のリズムで走り越えることができる。</u>	<u>周囲の友達に声をかけながら、積極的に場や用具の安全を確かめている。</u>
	B	一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えることができる。	場や用具の安全を確かめている。
	C	一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えることができない。 →何に困っているのか児童に寄り添って聞き、児童に合ったインターバルを探したり、児童に合ったリズムを声に出して言ったりする。	場や用具の安全を確かめていない。 →場や用具を確かめることの大切さを伝えた上で、友達と協力して場や用具の安全を確かめるように声をかける。

< 6時間目 >

体育の学力 (評価規準)	思考・判断・表現②	
評価場面	課題解決学習	
評価方法	観察	
判定基準	A	友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたいしたことを具体的に友達に伝えている。
	B	友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたいしたことを友達に伝えている。
	C	友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたいしたことを友達に伝えることができない。 →どのような動きや変化がよい動きなのかを一緒に確認し、友達に伝えることができるように声をかける。

< 7時間目 >

体育の学力 (評価規準)	思考・判断・表現①	
評価場面	課題解決学習	
評価方法	学習カード、観察	
判定基準	A	自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んだら、その活動を選んだ理由を具体的に学習カードに記述したりしている。
	B	自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。
	C	自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぶことができない。 →既習事項をヒントにして選ぶことができるよう、掲示資料や本時までの学習カードを一緒に確認する。

< 8時間目 >

体育の学力 (評価規準)	主体的に学習に取り組む態度②	
評価場面	課題解決学習	
評価方法	観察	
判定基準	A	きまりを守り、グループの友達を励ましたり、応援したりして誰とでも分け隔てなく仲よく運動しようとしている。
	B	きまりを守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。
	C	きまりを守り、誰とでも仲よく運動することができない。 →掲示物等を使いながらきまりを一緒に確認し、友達と協力して活動することができるよう声をかける。